日蓮大聖人御書全集

土籠御書

つちろうごしょ

新版
1639

土籠御書

文永8年(’71)10月9日　50歳　日朗

日蓮は、明日、佐渡国へまかるなり。今夜のさむきにつけても、ろうのうちのありさま思いやられて、いたわしくこそ候え。あわれ、殿は法華経一部を色心二法共にあそばしたる御身なれば、父母六親、一切衆生をもたすけ給うべき御身なり。法華経を余人のよみ候は、口ばかりことばばかりはよめども心はよまず。心はよめども身によまず。色心二法共にあそばされたるこそ貴く候え。「天の諸の

童子(どうじ)は、もって給使(きゅうし)をなさん。刀杖(とうじょう)も加(くわ)えず、毒(どく)も害(がい)すること能(あた)わじ」と説(と)かれて候(そうら)えば、別(べつ)のことはあるべからず。籠(ろう)をばし出(い)でさせ給(たま)い候(そうら)わば、疾(とく)とくきたり給(たま)え。見(み)たてまつり、見(み)えたてまつらん。恐々謹言(きょうきょうきんげん)。

文永八年辛未十月九日(ぶんえいはちねんかのとひつじじゅうがつここのか)　　日蓮(にちれん)　花押(かおう)

筑後殿(ちくごどの)